会越･大鍋又沢左俣右沢～笠倉山　小沼　充範

■山行年月日:2020 年
9 月 22 日～23 日
■メンバー:　小沼　充範
■コースタイム:
22 日　霧来沢林道 7:30～三俣 9:00～県境 914m12:15～笠倉山頂 14:00～テント場 17:20
23 日　テント場 8:00～林道車止め 9:30

焚火をしながら沢に泊まりたいと考え、勝手知れた大鍋又沢へ行くことにした。

9 月 22 日、霧来沢林道 7 時半出発。心細いのか、御神楽に行くという単独の登山者が出発間際までいろいろと話しかけてくる。大鍋又沢左岸の道をたどり、沢へ入る。10 年以上前に来たのが最後で、久しぶりの大鍋又沢である。きれいなナメと釜が発達している。ゴーロを過ぎるとスラブの山々が広がる河原となる。9 時、変則的な三俣の川原にテントを張る。

大鍋又沢左俣右沢 2 段 5m滝

必要な物だけを持ち左俣右沢を遡行する。平凡な流れを進むと 9 時 50 分、1091mピークへ突き上げる左沢が入る。右沢をしばらく行くと 2 段の滝が現れ下は 2m滝、上は釜を持つ 3m滝となっている。ここをどのようにして越えたか記憶になく、左岸を高巻く。右岸からナメの発達する沢が入ると小滝がいくつか現れる。「く」の字型 3m滝は大股開きで左足を中段に上げ体を押し上げて登る。周囲が岩場で囲まれた場所となり左岸に 30mの垂直な滝を掛け正面に水量の少ない 15m滝があり二俣となっている。ネットを見ると 30m滝を登って遡行している記録がある。以前遡行した 15m滝のある沢をつめる。

この 15m滝が核心部で記憶に残っている。滝は左から巻くがガレており 2, 3 歩が嫌らしく、突き出た岩を掴んで越える。小さな沢を渡り、藪をトラバースし滝の落口に出る。沢は豪雪地帯特有のナメの連続となり、右岸を巻くと沢へ戻れず、そのままスラブの露出する尾根を登る。尾根はホールド、スタンスがあって登りやすく、大鍋又沢上流のスラブの険しい山々を見渡すことができる。

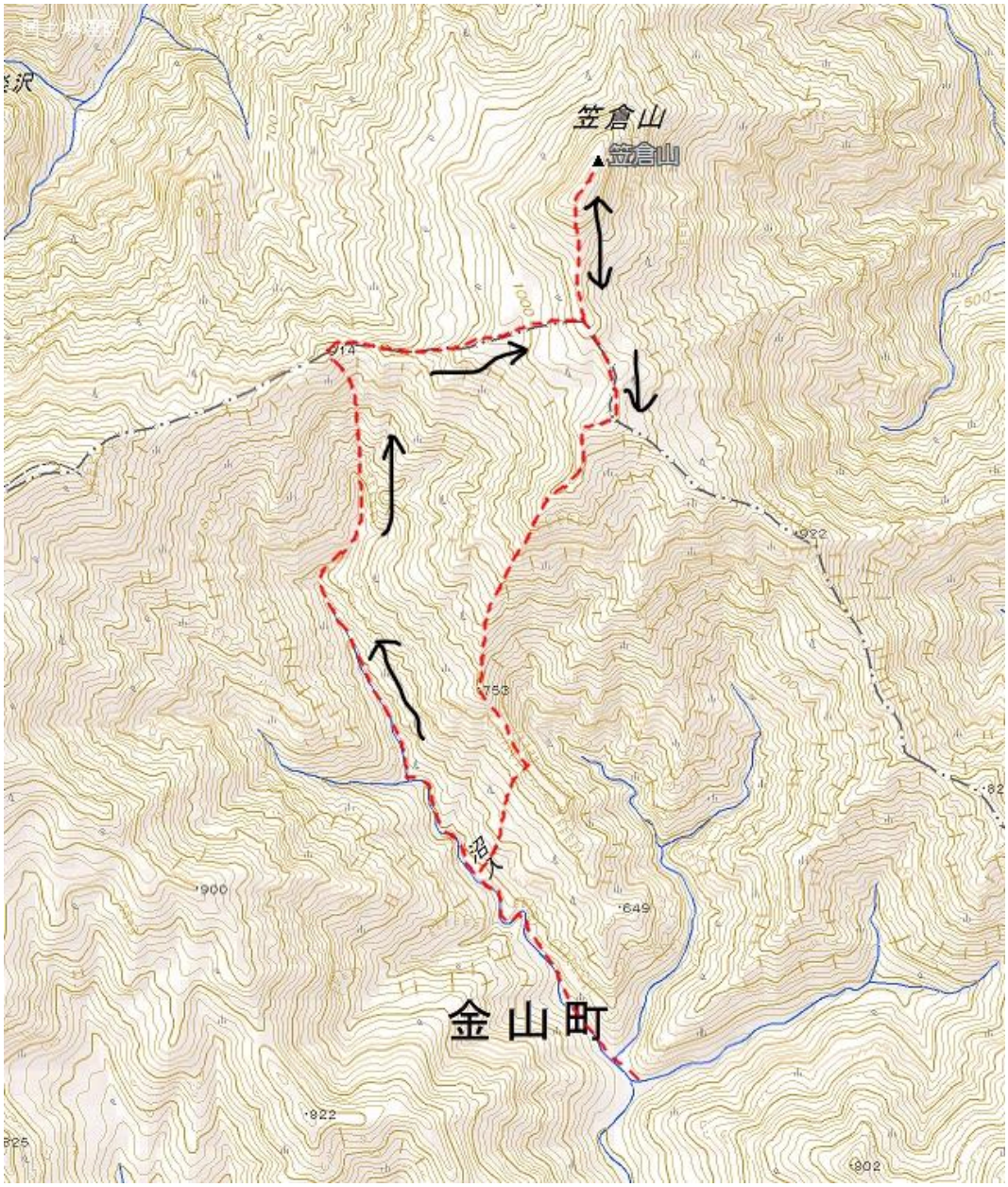
12 時 15 分、914mにたどり着く。9 月

下旬とはいえ気温が高くスラブ登りで汗だくになる。御神楽の山頂は雲に隠れているが水晶尾根等険しい山肌を見ることができる。岩の突起を通過し笠倉山を目指す。美しいブナの斜面を登ると笠倉山頂から南へ派生する尾根上にたどり着く。天然杉の生える尾根をたどると笠倉山頂上である、14 時着。山頂はこれで 3 回目。三角点は濃い藪の中に見つけることができた。山頂から鍋倉山、戸沢川上流のスラブの山々を見渡すことができる。帰路は中俣左俣の中間尾根を下る。県境からの下りで楢の大木の根元に大量のマイタケを見つける。市町村指定のごみ袋一杯の量である。郡山山岳会も 40 周年記録によるとほぼ同じ場所で採っているようだ。ザックに入れ背負うが、ザイル等も入っているのでとても重たい。小刻みに休みながら下る。痩せ尾

笠倉山のマイタケ

根の岩場から右下にブナの緩斜面が見え、そこを目指して下ると大鍋又沢である。テント場 17 時 20 分着。星空は見えないものの、小さな焚火の傍で酒宴とする。

9 月 23 日。8 時出発。今日は林道へ下るだけである。霧来沢林道 9 時 40 分着。湯倉温泉で汗を流す。滅多に天然舞茸を料理することはなく、いろいろレシピを調べ、絶品の舞茸ご飯、吸い物、天ぷら

大鍋又沢上流部

を食べることができた。